

学校名 所沢市立向陽中学校
所在地 所沢市向陽町2124
電話 04-2923-7201

1 本校の概要

本校は、1～3学年まで全21学級の比較的規模の大きな学校であり、学校図書館を利用する生徒の数も多い。読書活動としては朝読書、年に2度行う読書キャンペーンを中心として啓発を行っている。

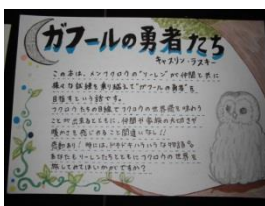
本校の課題はライトノベルなどの読みやすい本しか読まない生徒が大半だということである。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

(1)読書に親しむ態度や読書習慣に関わる取組として、図書掲示委員会生徒によるポップ作りを行った。本校生徒の読書の幅を広げ、様々な本を手にとってもらうことを目的としており、手順は以下の通りである。

- ・委員会で1か月前にポップ作りの予告をし、委員会の生徒には本を一冊選ばせる。
- ・下書きを書かせ、教員のチェックをもらう。
- ・板目紙に清書をする。(写真1)
- ・『図書委員からのおすすめ本』コーナーにポップを展示する。(写真2)

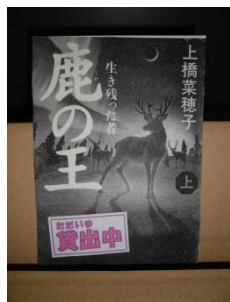


↑写真1

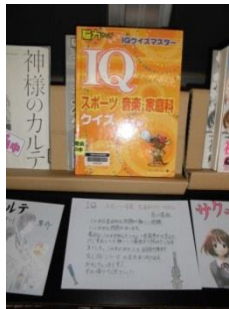


↑写真2

ポップと共に本を置き、貸出された本には「貸出中」という裏敷きが見えるようになっている。



ライトノベルからハードカバー、またクイズ本に至るまで用意させることで多くの種類の本が目にとまる環境を整えた。(写真3)



↑写真3



↑写真4

また、本棚には図書の分類番号を擬人化したキャラクターのイラストを置き、気軽にスペースに近づくことができるようにしている。(写真4) この取組をきっかけとして普段足を踏み込まない分野の本にも目を留めさせることがねらいである。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ア ポップと本を展示することで、興味をもって見に来る生徒がおり、貸出しにもつながった。すべての本を読むことに挑戦する生徒も現れ、読書の幅を広げるの一助とすることができた。
- イ 読書キャンペーンと重なるようにポップ作りを行ったため、キャンペーン期間中のおすすめ本コーナーはほぼ貸出中の状態となった。

(2) 課題

- ア ポップの紹介文を適切に書くことが困難な生徒もおり、本を一冊読むことや本を選ぶことに時間がかかった。これらの要因から、ポップの更新が頻繁にはできない。
- イ おすすめ本コーナーに置かれている本はライトノベル以外にも貸出されるが、常設の本棚の貸出し傾向にはあまり変化が見られない。

(3) おわりに

生徒の手で作られたポップは訪れる人に関心を持たせるきっかけとして良いものであったと思う。この活動を継続しつつ、自由読書である朝読書でも中学生にとって適切な本が読まれるような読書習慣へとつなげるため、さらに工夫していきたい。